２０２２年度　IFCA ユース事業完了レポート

日本財団助成事業
年間計画とプロジェクトごとの成果報告

IFCA
International Foster Care Alliance

助成 ◎ 日本財団			
＜プロジェクト１に共通するテーマ＞ **ユース主導の制作により完成した独自のツールの活用・普及を、児童養護施設や里親家庭に育つ子どもたちと、ケアを離れて自立する若者たちのエンパワーメントにつなげ、かれらの生活環境を改善する** ■時期：通年 ■場所：会議会場およびオンライン、地域でのアウトリーチ活動の現場　■参加者：『プロジェクト・チーム』のメンバー（約４５名） ■活動内容：勉強会、ワークショップ、説明会、アンケート調査・分析、日米ユースの協働、学術集会での発表			
プロジェクト名	**1A　トランジション・ツールキット**	**1A　これから新しい生活が始まるあなたのために**	**1B　パーマネンシー・パクト**
２０２２年度の目標	**ブックレット『トランジション・ツールキット（冊子）』及び『これから新しい生活が始まるあなたのために（絵本と解説書）』をもとに、ツールの指導と普及** ● 今年度中に両冊子を５００冊から１０００冊、読者に届ける		**ユースと大人の『パーマネンシー・パクト』ツールの指導と普及**
主な活動（1）	**『トランジション・ツールキット（TT）』を日本で普及させるための研修・ワークショップを年度内に合計 12 回実施** ・7 月 ユースへのワークショップ ・10 月 神戸市自立支援担当職員研修 ・2 月 ユースへのワークショップ（時期未定） ・支援者向けワークショップ ・福岡子ども家でのレクチャー、他	**『これから新しい生活が始まるあなたのために（PM）』を日本で普及させるための研修・ワークショップを年度内に合計 12 回実施** ・7 月一保の会での研修、他	**1）パーマネンシー・パクトを日本で普及させるための研修・ワークショップを 10 回開催** ・7 月 札幌市若年女性支援事業 ・8 月 横浜トラブルシュートネットワーク ・8 月 IFCA 研修 ・12 月 里親支援機関かなーちぇ ・12 月 北海道開発協会シンポジウム ・2 月 IFCA 研修、他 2）ユースに向けたパーマネンシー・パクトの説明を行いディスカッションする（1 回）
主な活動（2）	**【冊子のブラッシュアップ】** 1)昨年度と今年度、受理したアンケート結果をもとにディスカッションをし、冊子の改良を行う。 ☒ 2）米国 FosterClub のスタッフによる IFCA プロジェクトメンバーへの内部研修を通じて米国での実践について知識を高め、日本でのツールの普及活動を行う上での参考にする。（オンライン開催・1 回）	**[JaSPCAN２０２２ふくおか大会公募シンポジウム]** ● 管轄下の児童に対して PM を使用した大阪府堺市と広島県の児童相談所職員に、IFCA がインタビュー調査を実施した。その調査結果の発表、及び同職員による実践報告を行い、絵本活用による子ども・職員の変化、それを支える組織のあり方について検討し、この国の「子どもの意見表明」の進展に向けた創意工夫を議論する。	1）米国での実践を聞き取り、それを元に日本での実装について議論を深める（月例会議・8 回） 2）自立支援を主な事業とするパートナー団体との協働による、年間を通じたパーマネンシー・パクトの実践
事業成果物	**◎第２版発行 500 部** **・冊子注文ページ作成** **・当事者ユース向け、支援者向けのワークショップのパワーポイント資料とビデオ**	**◎第２版発行１０００部** **◎第３版発行１０００部**（予定より１０００部増） **・冊子注文ページ作成** **・当事者ユース向け、支援者向けのワークショップのパワーポイント資料**	☒ **◎ IFCA のホームページ内にパーマネンシー・パクトの紹介・事例と Q&A をまとめたページ**
★ プロジェクトの目標達成状況と評価	**【完了報告】**研修を通してケアリーバーや支援者にツールの周知を行った。特に今年度はケアリーバーとともにツールと使ったワークショップを実施したことで、改善点等の意見を回収することができた。また、注文ページを作成したことでツールの販売促進にもつながった。しかし、ツールの多くは支援者の手元にとどまりケアリーバーには届きにくいといった課題がみえてきた。今後はケアリーバー自身がツールにアクセスしやすくするために、アプリ等の開発を目指していく。	**【完了報告】** ２０２２年度も、チームメンバーが日本各地で開催された児童福祉に関する学会や講演会に参加して、この絵本の説明・広報を行った。その結果、大阪府堺市や広島県の児童相談所などでは、機関のスタッフ全員がこの冊子を利用して、移行期の子どもと対応するようになった。来年度からもこの冊子の利用者を広げて行きたい。	**【完了報告】** 地道な広報活動を通じて、多くの人たちにパーマネンシー・パクト（PP）を知ってもらうことができた。米国での PP の実践についてのディスカッションは、プロジェクトチーム全体がこのツールの趣旨や方法について共通認識を持つために役立った。来年度はより「わかりやすく PP を伝える」ことに着眼を置き、活動を継続したい。

助成 ◎ 日本財団			助成 ◎ 国際交流基金・日本財団
＜プロジェクト２に共通するテーマ＞ **日本国内とアメリカ合衆国での取り組みを通じて、年間を通じた社会的養護の子どもの権利擁護とユースアドボカシーの活動を行う** ■時期：通年 ■場所：会議会場およびオンライン、視察訪問先　■参加者：プロジェクトチームのメンバー（約４５名） 日米ユースメンバー(約３０名)、イベント参加者（約３００名） ■活動内容：研修会、ワークショップ、政策提言に向けた活動、アンケート調査・分析、学術集会での発表、日米ユースの協働と合同シンポジウム、			
プロジェクト２A **子どもの権利プロジェクト**	**プロジェクト２B** **Project ”C”**	**CYC – IFCA トレーニング**	**IFCA ユース海外プロジェクト** **“ COVID-19 後の人と人との繋がりと レジリエンス“　（３年間プログラム）**
当事者ユースから、日本版「社会的養護の子どものための権利章典」に明記したい意見を集め、草案を作成する **＊ 協議の結果、権利章典完成版作成に３年間の期間が必要と判断した。プロジェクト２年目の今年度は、日本初の社会的養護に特化した「子どもの権利章典」作成の基礎作りを活動の目標とする。**	２０２０年に開始した IFCA Project “C”による『新型コロナウイルス感染拡大危機が社会的養護の当事者にもたらした影響』についての実態調査の継続 **Project “C”の 報告書が提起する『当事者を対象としたメンタルヘルス・サービスへの課題』を政策提言へと発展させる活動**	**社会的養護の当事者とメンタルヘルスをテーマとしたトレーニングの実施と日米の活動の継続**	**プログラムの４つの目標** 1) COVID-19 が日米の社会的養護の当事者にどのような影響を与えたかを理解する 2) 日米両国の社会的養護当事者の権利について知る 3) 日米チーム間で長期・中期目標を設定し、相互に進捗を管理するスキルを身につける 4) COVID 時代に日米メンバーが思い描いた具体的な社会変化をについて協議する
・毎月第２日曜日の定例ミーティング ・IFCA 夏期合宿でのワークショップの開催 ・外部向けのワークショップの開催 ・広報・普及活動	◎『新型コロナウイルス感染拡大危機が社会的養護の当事者にもたらした影響についてのアンケート調査に関する**報告書（３）**』 ◎ 年度内に『中間報告』をまとめる方向で、自立支援施設を経験した人，一時保護所のみを経験した人を対象に質的調査を作成	◆ **CYC トレーニング**３回分を完了する １） No Stigma No Barriers　移行期の若者たちとメンタルヘルス ２） YPAR (その 2) ユース主導型のアクションリサーチの方法 ３） Youth Organizing Techniques　当事者参画の方法	**渡米プロジェクト　（訪問先・ロサンゼルス）** ▪ ロサンゼルス郡児童相談所で「子どもの権利章典」が郡内の子どもにどのように活用されているかについての情報を得る ▪ ロサンゼルス郡メンタルヘルス局において、移行期のユース向けサービスコーディネーターとの質疑応答
◎ 日本版子どもの権利章典を作成するための当事者ユースへのヒアリング（複数回） ◎ 「カリフォルニア州の社会的養護で育つ子ども・若者の権利章典」についての IFCA チームの報告書を印刷物としてより多くの人たちに配布し、このプロジェクトへの関心を高め、協働する仲間をつのる	**[JaSPCAN２０２２ふくおか大会公募シンポジウム]** において、プロジェクト C の調査結果を発表	◆ 年度末までに『社会的養護の当事者とメンタルヘルス」に関した**ワーキンググループもしくは YPAR チーム**を立ち上げる目標で、２度に分けて、臨床心理・医療政策などを専門とする他機関と連携して意見交換会をおこなう　☒	**米国ユースの来日と日米ユースサミット** a) 時期：２０２３年３月２５日と２６日の２日間 b) 場所：福岡市・東京・オンライン c) 参加者：社会的養護の当事者、養育者、専門職　１００名→２００名 d) 内容：**日米スピーカーのシンポジウム**
◎　子どもの権利プロジェクトのワークショップでのディスカッションの記録　（発表用のスライド・録画収録・議事録など）	**◎ 報告書と提言書** **1)　第３回目アンケート調査の結果報告書** **2)　自立支援施設と一時保護所を経験した人たちのアンケート調査の中間報告書** **3)　報告書に基づいたユースによる『提言書』**	◎ CYC-IFCA **トレーニングビデオと発表資料** ◎ 国内での意見交換会と専門職への情報採取のためのインタビューの記録	▪ **プログラム第１年目の成果報告レポート（国際交流基金へ）** ▪ ユースによるスピーチ原稿とブログ記事 ▪ ユースによるプログラムの評価 ▪ ユースサミットのチラシとプログラム
【完了報告】日本版の権利章典（ビルオブライツ）の完成時期を１年間延期し、２０２２年の夏期合宿では、社会的養護の下で生活する「当事者の権利」についてユースの意見を聴取し、内容に沿って分類する作業を行った。今年２月の福岡市での非公開ワークショップでは、日米ユース数名が権利章典について発表し、参加者がグループに分かれてディスカッションを行った。そういった活動が、このプロジェクトの方向性をより明確にし、２０２３年度の条例の選択と条文作成に向けて、具体的な指針を与えた。	**【完了報告】**本プロジェクトの３年間の調査を総括する形で，これまで調査に協力していただいた方たちにこの間の体験について自由記述での回答を求めた調査を実施し，その報告書をまとめた（2023 年４月中公開予定）。また 2021 年調査については日本子ども虐待防止学会での公募シンポジウムでその成果を報告した。 ＊自立支援施設を経験した人，一時保護所のみを経験した人を対象に質的調査については実施できなかった（上記の自由記述での調査に含める形となった）	**【完了報告】**CYC のトレーニングシリーズは多くの学びとともに終了したが、CYC の講義のテーマのひとつだった「移行期の若者たちとメンタルヘルス」は、昨年秋の IFCA 渡米チームのロサンゼルスでの視察研修の中では、繰り返し協議される重要なテーマとなった。また、米国ユースを招聘して行った２月の一連のイベントでも、メンタルヘルスを中心とした講演やディスカッションが際立って多かった。そこから得た収穫と成果物を土台として、２０２３年度には、他機関と連携したメンタルヘルスの意見交換会を開催したい。	**【完了報告】**この事業の準備期間は短く、始動した当初は十分な用意ができるかどうかが懸念されたが、参加メンバー４名がそれぞれ目的意識を持って視察先での発表などを作成することができた。これからの IFCA ユースの活動の方向性を意識して、「移行期のメンタルヘルス」と「社会的養護の当事者のための権利章典」という二つのテーマに絞り、すべての視察先に置いて、テーマに沿った視点から質疑応答やディスカッションを行った。２月のイベントと事業成果物の中にはテーマ性・方向性の面で、成果が現れていた。

助成 ◎ 日本財団

＜地域チームと全国ユースネットワーク の活動 に共通するテーマ＞
ユースデベロップメントの理念にもとづいたリーダー育成プログラムを実施し、社会的養護の当事者ユースの全国ネットワークを拡充する

■時期：通年　■場所：サミットを含む会議会場・地域での集合場所、オンライン、合宿・アウトリーチ活動の現場
■参加者：IFCA ユースとサポーティブアダルト（約４５名）団体外部からの研修参加者、サミット参加者（約１５０名）
■活動内容：研修、チーム会議、ワークショップ、サミット

リーダーシップ育成

IFCA が開発した『ユースリーダー育成プログラム』の実施

a) 時期：通年
b) 場所：地域チームの指定集合場所およびオンライン参加
c) 参加者：新人・先輩当事者メンバーおよびサポーティブアダルト（大人の伴走者メンバー）（約３５名）

d) 内容：『IFCA ユースリーダー育成マニュアル』を使用した新人および入団２年目の当事者メンバーの育成の基礎づくり

◎ 年間を通じたリーダーシップ講義の開催（年に２回ずつ）
1) 入団１年目のユースメンバー　５つのワークショップを受講
2) 入団２年目以降　４つのワークショップ受講
▷ **ワークショップ講師一覧（公開不可）**
▷ **IFCA リーダー育成マニュアル（公開中）**
https://acrobat.adobe.com/link/track?uri=urn:aaid:scds:US:06682761-1447-3c24-af99-21ef454aa988

IFCA ユースの夏期合宿の実施

a) 時期：２０２２年７月１７日・１８日
b) 場所：札幌市
c) 参加者：新人・先輩当事者メンバー（約 20 名）
d) 内容：当事者活動の基礎レッスン、リーダーシップ育成プログラムのワークショップの実践、など

- **ワークショップ年間予定表**
- **講師の発表資料（パワーポイントなど）**
- **ワークショップの録画収録**
- **ワークショップへの評価フォームの内容集計**
- **夏期合宿のカリキュラムとアンケートの集計結果**（カリキュラムは CANPAN に公開。評価フォームとアンケートは未集計）

【完了報告】
２０２１年度には「当事者リーダー育成マニュアル」を上梓し、団体としてのプログラムの内容や方向性はこの数年間で確固としたものに発展したが、一人ひとりのユースの知識とスキル習得のペースと量、学びのクオリティがまちまちであった。今後、ユースと大人の支援者がペアをつくり、すべてのユースメンバーの学びが充実したものであること、大人がユースの内面的な成長を見守るようなシステムを、団体の中につくってゆく計画である。

地域チームと全国ユースネットワーク

地域支部の拡大：メンバーの拡充（20%増）
メンバー構成：社会的養護の当事者ユース とサポーティブ・アダルト（伴走者となる大人）
➢ 各メンバーのリーダーシップスキルの習得等を評価フォームで測定：１年間のプログラム参加で評価値に２０%以上の成果

社会的養護の当事者リーダー育成の活動

a) 場所：東京都、静岡県、福岡県、関西等の地域
b) 参加者：社会的養護当事者とサポーティブアダルト
c) 内容：
・ 地域チームでの定例会議
・ ワークショップ
・ アウトリーチ活動、など
・ 全国チームネットワーク会議を通じた全国の当事者の連携

当事者ネットワーク合同会議及び日米サミットの開催

a) 時期：２０２３年２月
b) 場所：福岡市（現地会場および地域サテライト会場からの参加）
c) 参加者：全国会議にはユースとサポーティブアダルトメンバー約 30 名が参加。ユースサミットには１５０名の参加者動員
d) 内容：全国ネットワーク会議での１年の活動の振り返りと翌年度の事業目標について協議。**ユースサミット**での活動報告と日米登壇者によるパネルディスカッション

- **全国ユース会議の会議録**
- **ユースサミットのアンケート集計結果**

【完了報告】ユースエバリュエーションにおいては、個人の成長が２０%から３０%の前進を確認した。メンバー総数は、全国では例年のように５名の増加があったが、地域によって、メンバーが減少したままのチームがあることについては、今後の改善が必要である。2023 年２月の日米ユースサミットの広報の進め方については、２日間に５つものイベントを行ったために、参加を希望する人たちにとっては混乱を招くことになった。イベント開催の間際まで、合意に基づいた効果的な広報のストラテジーが見つからなかったが、イベント企画のクオリティーについては、どれも退位評価を受けた。

特記事項（この事業完了報告レポートの読み方）

ここに記述されている『目標・主な活動（1）（2）、および成果物』の中の項目で無印のものは、すべて完了しました。

今年、十分に達成できなかった目標・計画には、☒ の印をつけました。

このレポートの中にあるプロジェクトごとの計画や目標は、日本財団との契約の内容と必ずしも同一ではありません。個々のプロジェクトチームが『契約書』の内容に、「今年はこのような活動をしたい」「こんなことも達成したい」と考えて付け加えたものです。

また、ここにあるプロジェクトの目標・活動内容・成果物は、日本財団との話し合いにより、IFCA が許可を得て**変更を行った後の事業計画**です。